

工芸技術記録映画 平成13年度

石州半紙 35ミリ・カラー・3巻 34分 企画 文化庁・製作 日経映像

2002年優秀映像教材選奨 最優秀賞受賞

第46回日本紹介映画・ビデオコンクール 銀賞受賞

《 製作意図 》

紙漉きの里・石州。島根県三隅町では、伝統的なわざを用いて和紙を漉き続けてきた。石州半紙のわざは、昭和44年、国の重要無形文化財に指定された。現在、石州半紙技術者会がその保持団体として認定されている。

この映画は、寛政年間に発刊された『紙漉重宝記』に柿本人麻呂が石見の国に国司の時に紙漉きを教えたと記され約1300年もの歴史を持つ手透きの伝統を守り続ける石州半紙の製作工程を忠実に記録して、紙漉きに従事する専門家および一般の人々に映像による動く技術資料を提供するものである。

《 構成内容 》

長い歴史をもつ石州和紙（石州半紙）は、各地に伝わる日本の手漉き和紙の中でも最も強靱で光沢のある和紙として広く使われてきた。その原料となるのは楮・三桮・雁皮の植物の靱皮繊維を用い、補助材料として使うネリに「トロアオイ」の根の粘液を使い、竹簧や萱簧を桁にはさんで「流し漉き」によって一枚一枚の石州半紙が生まれて来る。

三隅町に住む職人たちの手で受け継がれ、一貫して保持されてきた石州和紙の技術・技法を、〈 楮の刈り取り、原木蒸しと剥ぎ、煮熟、塵取り、叩解、漉き舟にトロアオイを入れての棒混ぜ、簧桁による紙漉き、乾燥 〉と工程を追って鮮やかな映像で紹介する。

製 作	高畦幸一	語 り	倉野章子
演 出	黒崎洋一	音楽効果	山崎茂之
撮 影	大木大介	タイトル	鶴岡秋育
照 明	古屋 熱	原版編集	井上正司
演出助手	岩本智也	録 音	東京テレビセンター
撮影助手	小林泰治	現 像	IMAGICA